

令和2年度 第7回 理事会議事録

日時：令和2年10月27日（火）18:30～21:00

場所：Web会議

出席：(理事)小林伸、磯野、三科、小林司、有泉、名取、
古屋、菊池、井村、大西、鈴木、平賀
(部長)入倉、小林泰、秋山

書記：笠井

会員管理情報

慶事0件 弔事0件 施設数133

会員数920名(施設名860名 自宅60名)

I. 会長報告

コロナ禍の中で不自由なことがあるが粛々と業務を進めていただきたい。

1. 組織運営協議会について

10月11日にオンライン会議で行われた。

①2021年度の重点事業について

協会では15の事業を中心に展開していきたいため、それを元に士会の活動を具体化してもらいたいとの内容であった。地域包括、介護予防事業など市町村を巻き込みながら進めていただきたいとのこと。組織運営の強化として、学会は2024年までに法人化を目指していきたい。日本学会会議の諮問機関になることが最終目標となる。分科会は学術的なところで専門的なアウトカムを出せるような研究を進めてもらいたいと考えている。

学会が法人化になると協会員・士会員としての身分を明確にしていく。その中で改めて理事を選出し、協会役員が顧問となる。その集団が法人連合となり協会全体の運営にも関わっていく。

協会の理事、法人化した専門の立場からの理事、各ブロックの代表の理事が三位一体となって活動していくこととなる。

②会館が完成したため、来年度から会館建設費として徴収していた1,000円が減額されることが決定した。また、コロナ禍で研修ができなかったことにより概算で1,000円前後の会費減額を検討中。

③臨床実習指導者講習会の状況等について

政府方針を踏まえた新型コロナウイルス感染症に対応するための開催形式について方針が提示された。当士会はOTと協議しながら次年度開催できるようにしていきたい。

また、厚労省へ連盟として2023年度からの実習の開始要望を出し交渉をしている。

④生涯プログラムの変更について

システム変更のため2021年12月31日～2022年の3月までポイントの付与が困難になる。この間の「研修の読みかえをどうするのか今後の課題となる。

2. 関プロ士会長会議について

23日に関プロ士会長会議が開催された。

創立50周年について、神奈川は再来年2月の県学会に併せて、新潟が来年9月4～5日、長野が10月16日で開催予定。千葉は検討中。

第41回関プロは東京で来年開催予定。

士会長会議を当士会で来年2月に開催する。

上半期、様々な催しができなかったため、会費の減額や研修会の参加費無料等を、各士会とも財政状況に応じて検討している。

II. 審議事項（全2題）

1. 令和2年度中間監査資料の内容について(有泉事務管理局長)

【事業監査について】

結論・決定事項

①副会長の事業報告の中に、協会主催で6月6日に開催した第49回定期総会は磯野先生だけが参加と明記されているがそれでよいか。他に誰が参加したのか後日、確認をしてもらう。

②事業報告には10月以降の活動予定は記載しないようにする。

③会議の内容については記載しない。日時だけを載せる。会議の参加者名は明記せずに参加人数のみ明記する。

④名称の統一について

「士会事務所」と「事務所」の記載があるが「事務所」で統一する。「WEB会議」と「ZOOM」は「WEB会議」で統一する。

⑤総務部の事業報告に個別の施設名は記載しない。

⑥訪問理学療法委員会の活動に関しては3士会協議会が関わるので小林副会長が文書を修正して有泉事務局長に提出する。

⑦「山梨県地域包括ケア推進協議会介護予防リハビリテーション促進部会」はなくなったので削除する。

【中間決算報告書について】

結論・決定事項

①士会支部設立推進局を年度末決算では局として修正して申請する。

②協会から理学療法の日としての補助金の振り込みは10月以降なので今回の決算には含まれない。

③今後、支出として予定している予算600万円のうち、確実に支払われる金額(水道光熱費や事務員給与等)を計算すると概算で多く見積もって220万円程度となる。

よって、各局の事業費として400万円程度使えることになる。

磯野：各局での今後の予算の見通しを教えてください。

井村：企画局は各部長に依頼しているところなので、今は予算について回答できない。

大西：広報局は予算内に収まる。

古屋：社会局は執行の予定はない。研修会を開催する予定はない。

鈴木：福祉厚生局はリモートで研修会を開催することについて来月、局会議で検討する。

菊池：学術大会局は、士会学術集會部の消耗品を買い控えればそのままの予算でも可能である。

名取：学術研修局は学術研修部で80万円の予算となっている。

井村：企画局は公開講座のピラを撒くことに予算がかかるが、枚数や配布する範囲により予算は調整できる。

磯野：事業ができないことで予算がどれくらい余るかを確認したかただけなので、予算を使わずに事業を縮小しろということではない。予定している事は行ってほしい。

2. 来年度の士会費について(有泉事務管理局长)

来年度の士会費金額について減額方向で考えていたが、会費の金額変更については総会の決議が必要となっていた。

協会報告期限12月14日には間に合わないので、来年度については研修会の参加費を取らない方向で対応したいと考えている。この対応についてご意見をいただきたい。

磯野：通常の研修会の収入としていくらぐらい入るか。

有泉：昨年度の決算をみると研修費は120万円ほどの収入となっている。

磯野：事業を実施しないで余る金額が160万円から200万円程度になるので、来年度、研修会の参加費をとらなくても今年使わなかったお金で運用ができると考えてよいか。

有泉：数字上可能であると思う。今年度の決算を行ってみて繰越金の金額により、再来年度の会費を検討していく必要があるかもしれないと考えている。

平賀：会員に一部返金という対応はできないか。研修会の参加費をとらなくなると、不公平感が出てしまうのでは。

有泉：協会で返金の対応はしてもらえない。返金となると士会でその作業を行わなければならない。

小林伸：平賀先生からの意見は関プロ士会長会議でも出ていた。返金を行うことになると他県への異動する会員の場合や振込先の住所が不明である会員の対応などが難しい。一番平等となると研修会費を還元するのがよいのではないのかと思っている。

決定 来年度については研修会の参加費を取らない方向で対応する。

1. 各委員会等報告について

①訪問理学療法委員会(小林副会長)

家屋調査研修会の開催について(PT・OT・STバンク委託事業)

10月12日、訪問リハビリテーション委員会が開催され今年度の研修会の内容を検討した。家屋調査研修会の日程が令和3年1月13日に決定したので確認をお願いしたい。リハビリテーション専門職団体協議会の企画だが、山梨県理学療法士会のZOOMアカウントを使用させていただきたい。訪問リハの実務者研修会は昨年度まで10時間で実施していたが、今年度は5時間でよいとのことで話が進んでいる。さらに家屋調査研修会と山梨県従事者研修会を合わせて5時間でという話が挙がってきており現在、研修を企画中なので決まりしだい報告していきたい。

②がんリハ推進委員会(小林会長、磯野副会長)

委員会報告について

- ・今年度事業の目的は、がんのリハビリを県として取り組んでいくことを市民や医療関係者へ普及、啓発をすることとする。
 - ・今年度の公開講座はリモート開催とする。
 - ・参加対象は一般市民向けの公開講座とする。
- 以上の事項等について協議された。

③特別支援教育委員会(有泉事務管理局长)

委員会報告について

令和2年度第1回研修会が12月10日開催で決定した。ZOOMを利用したオンライン形式とする。研修会についてZOOM中継基地として事務所を使用させていただくことも検討中。使用することになった場合は事務所の使用申請をさせていただく。

④50周年記念事業実行委員会(三科副会長)

委員会報告について

- ・当日は記念式典、公開講座、祝賀会のスケジュールの流れとなる。
- ・表彰の基準は士会に所属した年数で決める。リストを作成したら報告する。
- ・県士会に協力した企業について表彰することはしないこととする。
- ・趣意書の文面については小林会長が修正する。
- ・趣意書を含めた文書は直接施設長に送るのではなく、施設長宛ての文書を現場のPTから施設長に説明し文書を渡してもらうこととする。
- ・予算については各局長と同様に、来年1月に予算書を作成する。

小林伸：協賛金の口数について個人と法人で分けなかったと思う。個人はやめて事業所・施設で1口1万円はどうか。記念誌の後ろに広告料として企業の宣伝を入れるのはどうか。

III. 報告 (全9題)

長野県士会の学会が10月16日に決定している
ので、10月24日ではなく翌週に日程を変えた
方がよいのではないか。

日程が日曜日ではなく土曜日にならないか。
祝賀会は夜になるので日程は10月30日の土
曜日がよいのではないか。理事で意見のある
方は三科副会長に連絡をすることとする。

有泉：10月30日は他県士会との催しと重なってはい
ない。

三科：明日の委員会で、協賛金のことや日程について
小林会長の意見を伝え、検討したいと思う。

2. 士会支部設立推進局：士会支部化に向けた部の設立 について（平賀局長）

部の名称について何がよいか教えていただきたい。
国中、郡内は地元にとっては馴染みがあるが県外の
人にはイメージしにくい。

井村：地元の住民にとって「郡内」はあまり良いイメ
ージではない。

小林伸：2分するという懸念があるようだが、広く士
会活動を浸透させる目的で支部化をしたい
狙いがある。他県士会の運営もリサーチして
もらいたい。

有泉：ニュース等では中西部、富士東部と報じられて
いる。

決定 名称は「中西部支部」と「富士・東部支部」
にする

3. 学術研修局：委託講習会部（応用編）の新規申請に ついて（名取局長）

今まで山梨リハビリテーション病院と健康科学大
クリニックで開催していたが、新たに甲斐リハビリ
テーションクリニックを会場に6月20日に開催す
る。テーマはバランスの評価と転倒予防（運動器と
神経疾患の相違を考える）で来年度の新規事業とし
て理学療法士講習会を新規申請する。新型コロナウ
イルス感染拡大の影響を鑑みてリモート・対面併用
開催を検討している。県士会のZOOMアカウントを
使用させていただきたい。

4. 学術大会局：合同学術大会第10回運営委員会開催 報告及び進捗について（菊池局長）

10月5日に上記委員会が開催され、先月の理事会で
審議していただいた合同学会の素案について提案
し、意見交換した結果をOT・ST士会に持ち帰り検討
していただくことになった。大会日程は講師のスケ
ジュールを押さえないと決められないため7、9、10
月の予定を伺いながら各士会で日程調整をしてい
く。

5. 生涯学習局：今年度の新人教育研修会について（代 読：有泉事務局長）

10月23日に今年度の新人教育研修会について
ZOOM上で会議を実施。今年度の新人教育研修会

は11テーマを開催予定。11月下旬より週2回のペ
ースで開催する。

6. 事務管理局（有泉事務管理局長）

①ZOOMの使用許可書について

申請された利用予定日の1週間前を目途に発行
します。3日前になっても連絡がない場合事務局
まで問い合わせてほしい。

②メール配信サービスの登録が490名ほどとなっ
ている。これまで全6回テスト配信を行っている。
継続して、各所属のスタッフにメール登録
の促しをお願いしたい。

7. その他

・50周年記念事業の会計について

本通帳ではなく積立金の通帳を使用させてもら
ってもいいか。（小林泰部長）

磯野：使いやすくてお金が分けられていれば、
積立金の通帳を使用してもよいと思う。

IV. 次回の理事会日程について

日時 令和2年11月24日（火）19：00～

場所 Web会議

連絡 11月20日（金）までに審議事項および資料
を事務管理局（有泉理事）へ提出する。
議題がない場合でも事務管理局へ連絡する。
理事会資料は事前にメールで各理事へ連絡
する。

事務局からの再度のお願い

ZOOMアカウントを使用する場合は、ヤフーカレンダ
ーにて使用状況を確認してください。